

国立大学法人東京海洋大学の平成25年度に係る業務の実績に関する評価結果

1 全体評価

東京海洋大学は、海洋に関して国際的に卓越した教育研究拠点を目指すとともに、研究者を含む高度専門職業人養成を核として、海洋に関する総合的な教育研究を行うことを目指している。第2期中期目標期間においては、豊かな人間性、幅広い教養、国際交流の基盤となる幅広い視野・能力と文化的素養を有し、海洋に対する高度な知識と実践する能力を有する人材を養成すること等を目標としている。

この目標達成に向けて学長のリーダーシップの下、海洋工学部においては、学部4年間を通じて学生の表現力やコミュニケーション能力、他者と協働する力を養うことを目的としたGLI（グローバル・リーダーシップ・イニシアチブ）プログラムを策定するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（機能強化に向けた取組状況）

理工系海洋人材の戦略的育成を強化するため、特に海洋環境分野と海洋資源エネルギー分野を核とする大学改革構想を、平成25年9月3日に「9.3 学長メッセージ」として全教職員に対して発信するとともに、具体的な構想を検討するため、将来計画委員会のもと「人材輩出リサーチワーキンググループ」を立ち上げ、「海洋環境分野、海洋資源エネルギー分野の人材養成に関する調査」を学外有識者の助言を得ながら実施している。

2 項目別評価

I. 業務運営・財務内容等の状況

（1）業務運営の改善及び効率化に関する目標

（①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化）

平成25年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 学長と教職員が直接意見交換を行う「学長と話す会」を毎月開催し（各回参加者約10名）、業務の効率化・合理化を含めた大学における諸課題について教職員の声が直接学長に届く機会を設けている。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由） 年度計画の記載10事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

（2）財務内容の改善に関する目標

（①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加、②経費の抑制、
③資産の運用管理の改善）

平成25年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 世界中の研究者との比較をすることができる研究評価ツールの導入を決定したことにより、現状の研究状況を把握し、地域や国際社会のニーズに合わせた研究の高度化を図っているほか、競争的資金等の研究公募情報を電子メールによる各教員への通知等を実施することで外部資金の安定的な獲得を目指し、復興関連受託研究費を除いた外部資金獲得額は12億144万円（対前年度比6,608万円増）となっている。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由） 年度計画の記載5事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

（3）自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

（①評価の充実、②情報公開や情報発信等の推進）

平成25年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 魅力ある教員を動画で紹介するウェブコンテンツ「Scientist Profile」の提供を開始するとともに、高校教員及び受験生向けに海洋工学部を紹介する動画を公開するなど、入試広報活動を推進している。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由） 年度計画の記載6事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

（4）その他業務運営に関する重要目標

（①施設設備の整備・活用等、②安全管理、③法令遵守）

平成25年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 大学のプロジェクトとして、省エネルギー機器への更新（ハード面）を行うとともに、電力使用量の見える化による教職員等の省エネルギー意識の向上（ソフト面）を図ったことで、品川キャンパスにおいては二酸化炭素排出量が目標（対平成22年度比12%の削減）に対して、大幅に削減（20%）されるなど、環境保全対策に関する積極的な取組が行われている。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由） 年度計画の記載7事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

II. 教育研究等の質の向上の状況

平成 25 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 学生の英語学習支援として、品川キャンパスに自習用個人ブース 20 席、スピーキングの練習用として防音ブース 3 室を備えるとともに、e-learning システムや、英語学習教材（DVD 等）が利用でき、英語学習アドバイザーも常駐している語学学習スペース「グローバルコモン」をオープンさせ、平成 25 年度の利用者は延べ約 2,100 名となっている。
- 海洋科学部において、高校段階からグローバルな活躍を意識した人材を求めするため、平成 28 年度入試から全学科の全試験区分の出願要件として外部英語資格試験のスコア提出を課すことを決定するとともに、高校生に留学推奨を行う入試制度として、高校在学時に 1 年以上の海外留学体験をした受験生を対象とした「留学経験特別枠入試」を新設することとしている。
- インターネットを利用した博士論文公表についての学位規則改正及び東京海洋大学学術機関リポジトリ OACIS のコンテンツの充実（学位論文：369 件、紀要：531 件、その他：43 件）を推進することにより、平成 25 年度における OACIS 収録コンテンツへのアクセス件数は、平成 24 年度の 17 万 6,710 件から約 8 倍の 142 万 5,698 件となっている。
- 長期インターンシップやワークショップ、キャリア相談等の支援体制を充実させ、博士課程学生及びポストドクターのキャリアパスを多様化することを目的とした「ポストドクター・インターンシップ推進事業」を実施するとともに、企業や団体等の第一線で活躍する方を講師に迎えて実施する正規授業科目「高度専門キャリア形成論Ⅰ・Ⅱ」を 9 回、インターンシップ修了者による就業体験報告ワークショップを 2 回開催するなど、若手研究者支援に積極的に取り組んでいる。
- 男女共同参画推進室女性研究者支援機構（通称「海なみ」）内に女性研究者のための一時休憩室・乳幼児用プレイルーム「ペンギンルーム」や、研究者を目指している女子学生等のための相談サロン「オレンジルーム」を設置し、女性研究者の活動を支援すること等により、女性研究者（専任・非常勤教員及び博士研究員等）の在職比率が平成 25 年度では 20.6 %（対前年度比 1.3 ポイント増）となっている。
- 海洋工学部において「自律的な英語コミュニケーション能力」、「グローバル社会で活躍するために必要な教養」、「グローバル・コミュニケーション体験」、「リーダーシップの基盤を作る体験」という 4 つの指標を用いて、学部 4 年間を通じて学生の表現力やコミュニケーション能力、他者と協働する力を養うことを目的とした GLI（グローバル・リーダーシップ・イニシアチブ）プログラムを策定している。